

昨年の10月だった。中学校の国語の授業を参観し、指導助言を行う機会があった。県の研究会であり、県内各地区代表の先生方も参加していた。当日の授業を行う前に、何度か事前の研究授業が行われ、そこにも参加させていただいた。こうやって、授業者を中心に、みんなで授業力を上げていこうというシステムになっている。

これまでも、同じように授業を参観し、指導助言を行うということを繰り返してきた。その度に、落ち込み、反省をしてきた。うまくいったことなど一度もない。時間制約のある中で、その場にいる参加者にわかってもらわなければならない。伝え方を考え、むずかしいことをやさしく話す翻訳力が問われる。

この日も、うまくいったわけではないが、大きく落ち込むということもなかった。だが、初めて「もういいかな」という思いが湧き上がってきた。やり切ったわけではない。限界を感じたというのも違う。

私が目指しているのは、先生方が授業のことを考え、授業を変えるきっかけづくりである。できる限り多くの先生方に、授業のことを考えていただき、授業の平均値を上げたいのである。そして、多くの子どもたちを救ってほしいと考えている。

だが、与えられた15分から30分の時間枠の中で、話すことを絞り、わかってもらうのは容易なことではない。先生方には、話を理解していただいているように感じる。だが、授業は、なかなか変わらない。変わっていかない。話はわかるのだが、授業をどうしたらいいのか、授業をどう変えたらいいのかかわからない。たぶんそうなのだと思う。話の理解と授業づくりの間に何かがある。その何かを埋めるためにはどうしたらいいのか。

ずっと考えていた。イメージは、こんな感じである。「誰でもできる国語研究授業 AtoZ」「国語授業づくりガイドブック」などである。作成したとして、どうやって広めるのか。書籍として刊行し、書店やネットで購入してもらおう。これは、一度やってみた。そう簡単に売れるものではない。

では、どうするか。インスタやブログを活用してはどうだろうか。今どきである。インスタに概要版をアップし、興味をもってもらおう。ブログには、詳細版を載せ、じっくりと読んでもらう。もっと多くの先生方に伝えるにはどうしたらよいか。その結論が、インスタとブログである。

10月の研究授業では、伝えることよりも広めることの困難さを感じたのだと思う。もっと知ってほしいという思いが強くなったのだろう。だからといって、これからも、頼まれたことを断ることはしない。すでに、来年度のオーダーもいくつか入ってきている。伝え方、広め方をもっと考えていこうということである。便利なものは、どんどん使っていきたい。これからも、時代に遅れないよう、がんばっていこう。